SOKA University Discover your potential

学びのレポート 2022

本レポートについて

i. 本レポートの目的

本レポートは、本学が実施している「学生生活アンケート」の調査結果をもとに、創価大学学部生（以下、創大生）における学びに関する分析結果を各号ごとに観点を変えながら報告をしていきます。

本レポート結果をもとに ①本学内において創大生の学びの共通理解を生み出すこと、②調査回答者である創大生のみなさんが自身をふりかえり、これからの学びを考える一助となること、③自分以外の創大生の学びについて知ることで、自らの学びへの刺激となることを目指していきます。

ii. 「学生生活アンケート」の概要

大学における諸活動の点検・評価とそれに基づく改善・向上の取り組みによる「教育の質保証」が求められている中、「学生生活アンケート」は次の事を目的に掲げています。

1．創大生における日常生活の実態把握（意識・行動）及び点検
2．学生意識の側面からの大学運営の点検
3．グローバル教育に関する点検および改善策のための情報収集
4．IR データと統合し、成績や就職状況との関係の把握

上記の目的のもと、「学生生活アンケート」はアンケート実施時において本学に在籍する創大生を対象に悉皆調査として、本学の学習支援ポータルを経由してオンラインで実施しています。直近 2022 年度から 2019 年度のアンケート回収率は表 1 の通りでした。

表 1　2020 年度　学生生活アンケート　回収率

実施年度	①対象者数	②回答者数	③全問回答者数	回答率(②/①)	全問回答率(③/①)	全問回答到達率(③/②)
2019 年度	7,073	2,778	2,049	39.3%	29.0%	73.8%
2020 年度	6,953	3,366	3,059	48.4%	44.0%	90.9%
2021 年度	6,780	3,674	3,171	54.2%	46.8%	86.3%
2022 年度	6,423	2,972	2,604	46.3%	40.5%	87.6%

なお、学生生活アンケートの調査結果概要は、下記の本学 HP にも掲載して公開しており、学内外問わず誰でもアクセスして参照することが出来ます。

学生生活アンケート：https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/studentsurvey/

「異文化の理解」が高まる大学

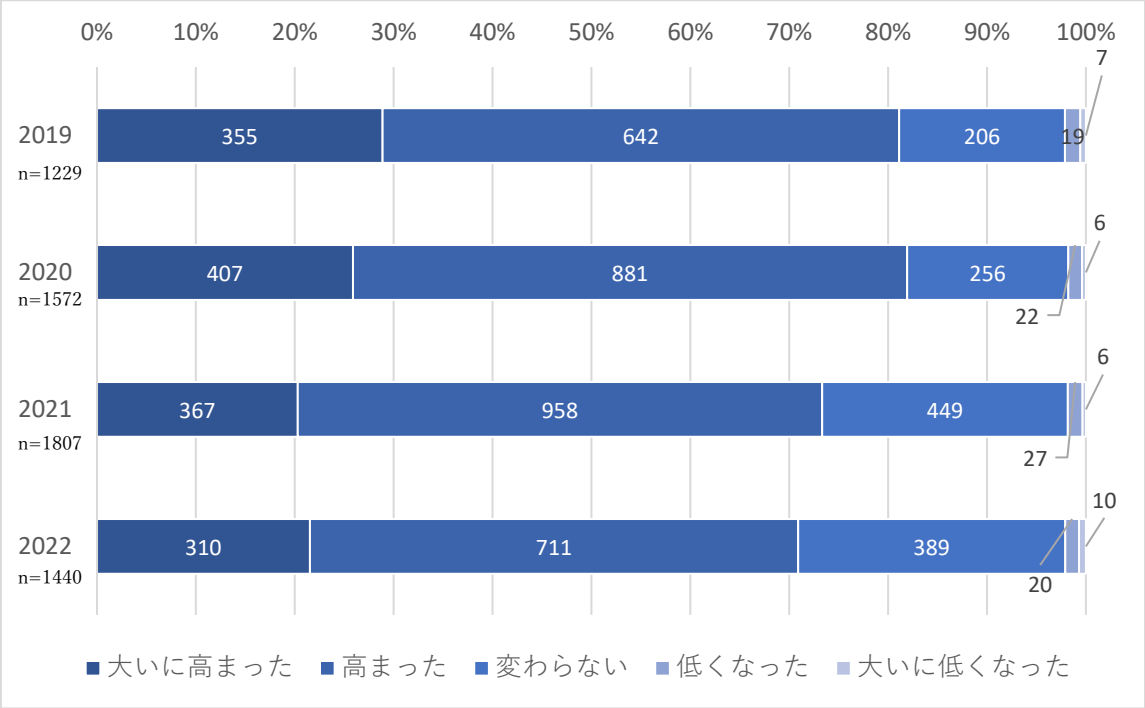
i. 創大生における成長実感の特徴

学生生活アンケート回答結果を分析するなかで、創大生の大きな特徴の一つとして見えてきたことは、2 年生、および 3 年生を対象とした成長実感に関する設問の 1 つである「外国文化などの異文化の理解」において、「大いに高まった」「高まった」との回答が非常に多いという事が確認できました。

図 1 は「入学時に比べて、あなたの以下のような能力や知識はどのように変化しましたか。(外国文化などの異文化の理解)」の 2019 年度～2022 年度の回答結果を表したグラフです。2019 年度、2020 年度の回答結果では、「大いに高まった」と「高まった」の回答数を合計すると 8 割を超える割合となっています。一方で、2021 年度、2022 年度の回答結果では「大いに高まった」と「高まった」の回答数合計は約 7 割に留まっています。これは、

本設問が 2 年生、3 年生を対象としており、2020 年度入学生、2021 年度入学生においては、コロナ禍の影響によって、派遣留学や短期研修の中止が余儀なくされたことや、キャンパス内においても各国から本学に受け入れている留学生の人数が減少したことが大きな要因として考えられます。しかしながら、そのような状況においても本学における学びを通じて過半数を超える創大生が「外国文化などの異文化の理解」を高めることができたと感じていることが分かります。

図 1 「入学時に比べて、あなたの以下のような能力や知識はどのように変化しましたか。（外国文化などの異文化の理解）」

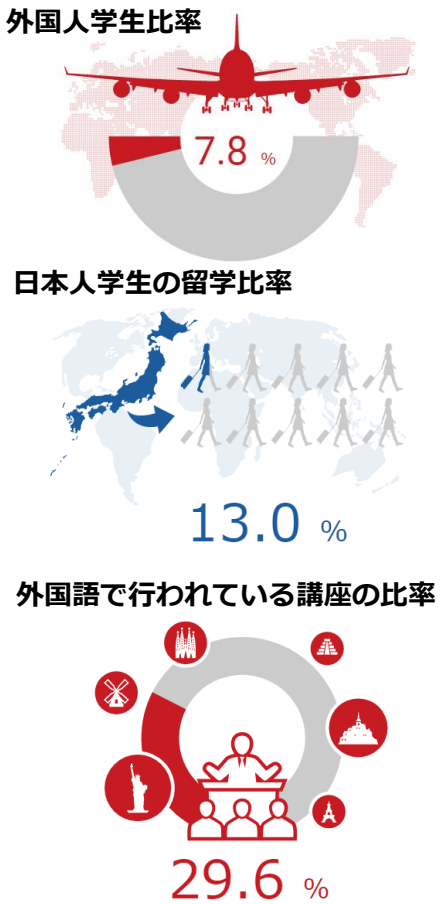


ii. THE 世界大学ランキング日本版 2022 「国際性」で、本学が 5 位

2022 年 3 月 24 日（木）、イギリスの高等教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）』を運営する TES Global 社がベネッセグループの協力のもと、「THE 世界大学ランキング 日本版 2022」を発表し、本学は「国際性」の分野で 5 位（3 年連続トップ 10 入り）にランクアップしました。

同ランキングは、教育リソース、教育充実度、教育成果、国際性の 4 分野 16 項目で構成されており、高校教員や企業人事による評価の他、学生の成長および学習成果といった大学の教育力を測る設計となっています。

図 2　本学の国際性に関わる根拠データ



（THE 世界大学ランキング日本版 HP より引用）

本学が今回 5 位にランクインした国際性分野は、「外国人学生比率」や「日本人学生の留学比率」、「外国語で行なわれている講座の比率」「外国人教員比率」などの結果を根拠に算出し、ランキング付けをしています。

本学は開学以来、世界を舞台に新たな価値を生み出す人材の育成に取り組んできました。2014 年に採択された文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」においては、日本人学生の海外派遣や外国人留学生の受け入れの拡大、教育プログラムの国際的通用性の向上、学内ガバナンスのグローバル化等を各部署が連携・協力して推進。2 回に渡る事業の中間評価では、1 回目（2018 年 2 月発表）、2 回目（2021 年 3 月発表）と、いずれも最高ランクとなる「S」評価を得ることが出来ました。

このように、学生の国際性を高めるための本学の取り組みは、世界大学ランキングや文部科学省による客観的な指標においても高く評価をされています。

iii.　文部科学省「全国学生調査（試行）、（第 2 回試行）」による他大学との比較

本学は「学生第一」を理念として掲げており、大学による様々な取り組みが高い評価を得ること以上に、その取り組みが学生の成長に繋がっていくことが最重要と考えています。「外国文化などの異文化の理解」に関する創大生の成長実感について、本学が実施している学生生活アンケートの結果は上述の通りですが、ここでは他大学の学生との成長実感の比較を見てみたいと思います。

文部科学省は日本国内の大学を対象とした「全国学生調査」を施行実施しており、私立大学としては 2019 年度には 318 大学、2021 年度には 430 大学が調査に参加しました。この調査の中で 「異なる文化に関する知識・理解」に関する設問があります。図 3 は 2019 年度の設問「次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。(異なる文化に関する知識・理解)」における「とても役に立っている」と「役に立っている」を合計した回答割合を示しています。

調査に参加した私立大学全体では、「とても役に立っている」、「役に立っている」を合わせて 58.3%であったのに対し、創大生は 89.8%とおよそ 9 割という非常に高い割合となりました。

同様に図 4 は 2021 年度の設問「大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。(異なる文化に関する知識・理解)」において、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」を合計した回答割合となります。ここでも私立大学全体では、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」を合わせて 65.9%であったのに対し、創大生は 87.2%とこちらも 9 割に迫る非常に高い割合となりました。

この設問にある「異なる文化に関する知識・理解」は、本学の学生生活アンケートの設問「外国文化などの異文化の理解」と同義であると考えられることから、本学が提供する学びによって、「異文化を理解する力」が育まれ、他の私立大学と比較しても高い成長実感を伴う有益な教育環境を提供できていると考えています。

図 3　2019 年度「学生調査（試行実施）」
次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。
(異なる文化に関する知識・理解)

「とても役にたっている」、「役に立っている」の割合

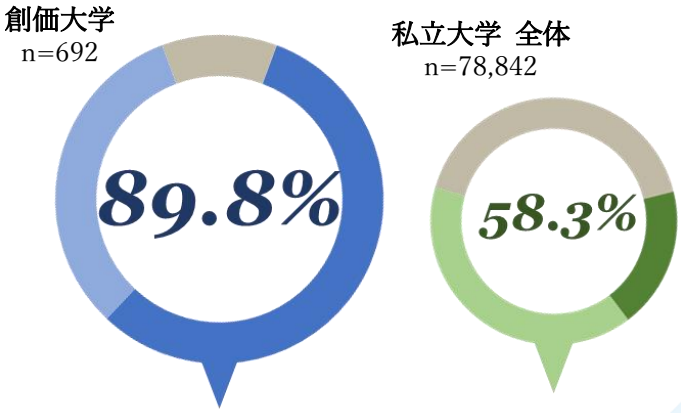
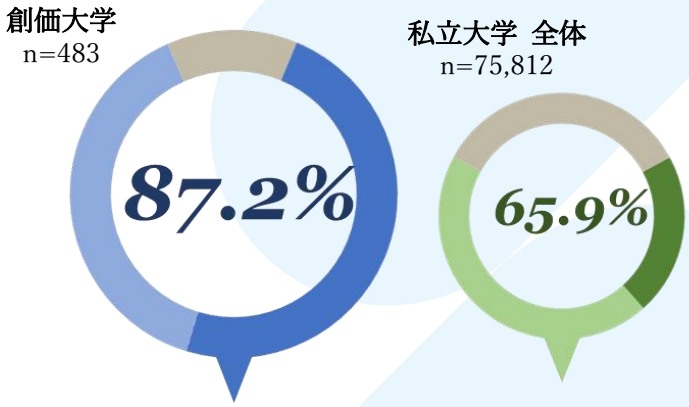


図 4　2021 年度「学生調査（第 2 回試行実施）
大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。(異なる文化に関する知識・理解)

「身に付いた」、「ある程度身に付いた」の割合



iv.　本学が提供する「異文化を理解する力」を育む教育環境

本学は正課の授業のみならず様々な文化背景の理解を促す教育環境を、学生生活全体を通じて様々提供しています。ここでは THE 世界大学ランキングの根拠情報として紹介したもの以外で代表的なものを紹介します。

外国籍教員ならびに海外での教育研究経験を持つ教員による講義

THE 世界大学ランキングでは、「外国語で行なわれている講座の比率」がランキング評価の根拠として活用されていますが、本学では外国籍教員ならびに海外での教育研究経験を持つ教員を約 200 名擁しています（2022 年 5 月 1 日時点で 186 名の該当する専任教員が在籍）。語学や文化論といった講義内容を問わず、外国籍ならびに海外での教育研究経験を持つ教員の講義を受講することによって、その教員の人格や知見を通じて国際感覚を養うことができます。

WLC（World Language Center）による学習サポート

本学のラーニングコモンズ「SPACe」に併設されている WLC では、学生一人一人の英語力に応じて日常会話の練習が行える「Chit Chat Club」、国際問題等のテーマに沿って英語でディスカッションを行う「English Forum」、およそ 10 言語でネイティブの留学生との交流ができる「Global Village」などの学習支援サービスを提供しています。これらのサービスを活用することで、日本のキャンパスにいながらにして異文化に触れながら語学力を培うことができます。

国際学生寮による共同生活

共同生活を通じた人材育成の一環として、学生の寮生活も教育環境の一つとして重要なものと本学は位置付けています。その上で、創価大学には留学生と日本人学生が共に生活を過ごす国際学生寮があります。この国際学生寮では日本語だけではなく、英語をはじめ、さまざまな言語で語りながら、友情を育むことができます。さらには、同じ日本人同士であっても出身地域によって文化・習慣も異なります。このような環境の中で協力しながら共同生活をしていくことを通じて、将来の土台となる人格を形成することを目指しています。

このように、本学は建学の精神に掲げている 「人間教育の最高学府」 として、豊かな人間性を育む教育環境を提供することに努めており、学生生活アンケートや、THE 世界大学ランキング、ならびに文部科学省「全国学生調査（試行）」の調査結果は、これらの取組が学生の「異文化を理解する力」の成長に寄与していることを示していると考えます。

創価大学
大学評価・IR 事務室